

§ 妖精界 [Hidden Crevice]

妖精界とは、妖精郷、ティル・ナ・ノグ、常若の国とも呼ばれる妖精たちが住む異世界のこと。

○ 妖精界の構造

妖精界は一種の次元の裂け目に存在する。その裂け目の先端は、魔界や具象界などの自然の豊かな地域につながっている。その接続点は、妖精達にしかわからないようになっている。

妖精界自体は、どこまでも穏やかな気候に包まれ、高層ビルを越える高さの木々が無限に生い茂る世界。重なった巨大な葉や枝の上に道があり、どこまでも旅することができる。草原地帯、湖、雪を冠した山岳地帯などもあるが、それらは妖精界全体の10%程度しかない。

妖精界自体は1つではなく、様々な次元の裂け目のあちこちに存在する。中には複数の妖精界がつながっているところもあるが、ほとんどが孤立している状態。

○ 妖精界の住人

植物達の神ともいえる高位の霊格を持つ意識体によって、植物を守るために生み出されたのが、この世界の妖精である。その意識体の存在は人間には理解しがたいものであるが、妖精たちはその「大自然の意志」のようなものを漠然と感じ取っている。

妖精界の住人には、主に以下の種族が存在する。

- 1) エルフ
 - 人間によく似た外見をしている。外見的特徴として耳が尖っていることが多い。
 - 瞳の色は、銀、褐色、緑色のいずれか。いずれも濃淡の個人差がある。
 - 髪の色は、白(白銀)、褐色、緑色のいずれか。いずれも濃淡の個人差がある。
 - 肌の色は、白、褐色、緑色のいずれか。いずれも濃淡の個人差がある。
 - 「妖精樹」(エルフ・ツリー)と呼ばれる巨大な木に、直径1mほどの木の実ができることがあり、エルフはその中から生まれる。この樹は妖精界にのみ存在する。
- 2) フェアリー/ピクシー
 - 背中に昆虫の羽根を持つ小柄な妖精。
 - サイズが大きい個体はフェアリー、小さな個体はピクシーと呼ばれる。
 - 「妖精花」(フェアリー・フラワー)と呼ばれる特殊な花があり、フェアリー/ピクシーはその蕾の中から生まれる。この花は妖精界にのみ存在する。
 - 瞳、髪、肌の色は、生まれる花の色が基準になる。「妖精花」の花には、あらゆる色が存在する。
- 3) 小人(ピグミー)
 - 「妖精草」(ピグミー・グラス)と呼ばれる特殊な草があり、小人はその根元に出現する球根から生まれる。この草は妖精界にのみ存在する。
 - 一度に必ず2体以上生まれるため、妖精の中では一番人口が多い。
 - 瞳と髪の色は、ほぼ褐色(濃淡の個人差あり)。
 - 肌は白のものがほとんどだが、稀に褐色や緑色のものもある。

○ 妖精達の生活

1) 銀のナイフ

棘の茨 [Argent Thorn] と呼ばれる植物の巨大な棘(数cm~数十cm)の先端が、ナイフのようになっており、妖精達はそれを大きさに応じてナイフや針のように使用する。実際にその棘の組成は銀とほぼ同じであり、妖精達が使う道具の中で唯一といつていい金属製品でもある。この棘は、武器として槍の穂先や矢尻としても使用される。また、特別に大きなものは剣や銃として使用されるものもある。

2) 衣類

衣類を構成する布としては、巨大な葉を乾燥させたもの(緑色)、木の皮を加工したもの(茶色)の2種類がある。これに乾燥させることで強靱な紐となる蔦植物を糸として編むことで衣類を作っている。また、この蔦植物の糸は、束ねることでロープにもなるため、幅広く生活に利用されている。

3) 食事

飲料としては、川や湖からくみ上げた水をそのまま利用する他、葉の雫を集めたものも多用される。また、果物を搾った果汁も飲料水として使用される。食事はもっぱら自然が与えてくれる果物や野菜である。妖精達は自分達の食料となる果物や野菜となる植物の育成を管理している。特別な食事としてハチミツがある。虫を使役できる妖精は、養蜂を行い、干渉しすぎない程度にハチミツを収穫している。

4) 住居

その場にある樹木、草などをロープで上手く引き寄せ、重ね合わせることでテントのような住居を作っている。この住居を構成する植物は生きているため、ある程度大きくならなつた組み方を要することで、より大きな住居にすることができる。

5) 使役蟲

妖精界には巨大昆虫があり、その内の数種類は、主に小人によって労働力等に使役されている。

- ・ 蜂 : 養蜂としてハチミツを採取する。
- ・ 蜻蛉 : 騎乗動物として交通手段に利用する。
- ・ 蝸牛 : 荷役蟲として重量物運搬に利用する。

○ 妖精達の信仰と宗教

妖精達は、自分達を生み出した神ともいえる存在がいることを知っている。妖精達はそれが神=植物であり、妖精界と具象界に存在する植物全ての意志だと感じている。妖精達にとって植物とともに生きることは神とともに生きることであり、生きること自体が信仰である。したがって、具象界にある人間の宗教のような、礼拝や宗教的遺物を祭るような習慣はない。

○ 妖精達の社会

妖精達のほとんどが、エルフを中心とした小さな共同体を作って生活している。その共同体の中で最も年老いたものが長老としてリーダーを務めている。

○ 妖精界と具象界

太古の昔、妖精達は具象界の生き物(主に人間と動物)と交流を持っていた。しかし、人間の自我が肥大し、自然を搾取・破壊するようになると、妖精達は人間と交流することをあきらめることにした。

人間との交流があった時代、一部の妖精が人間と交わり合うことを試みた。その試みは部分的に成功し、妖精と人間の血を引くものが生まれた。”半妖精”と呼ばれるものたちは、幼いころは人間と同じ速度で成長し、成人する前後から外見がほとんど老化的ないという特長を持っている。半妖精は、妖精の美しい容姿と強靱な精神、人間の適応能力と生命力を併せ持っている。

ある時、人間が半妖精に嫉妬し、攻撃する事件が起きた。その嫉妬は人間の中で増大・飛び火し、半妖精は人間に狩られることになった。生来から争いを好まない妖精達は、この事件をきっかけに人間に見切りをつけ、そのほとんどが妖精界に引きこもってしまった。

§ 妖精王国「ベイロンズ・ウェル」Bayron's Well
生き残った半妖精の団が、人間の追撃を避け、妖精界を守るために尽力した。その団がたどり着き、妖精界の防衛拠点として作成した砦が、この妖精王国である。名前の意味は”ベイロンの泉”。その団のリーダーが、発見した小さな泉の前で妖精界を守る誓いを立てたことに由来する。

○ 妖精王”ウィル・オ・ベイロン”

生き残った半妖精の団を率いたリーダー。泉にて誓いを立てたことで、皆から妖精王として推挙された。以後、妖精界を守るために砦を建設、騎士団を組織し、人間のみならず、魔神達の侵入も撃退することに尽力した。妖精界の次元閉鎖を維持する礎となるべく、強力な結界魔法を行使し、その代償として眠り続けている。

○ 妖精女王”ティル・ティ・ターニヤ”

ベイロンの伴侶であり、妖精界に残る半妖精たちにとって母ともいえる存在。夫が行使した結界魔法を補佐するべく、夫といっしょに眠り続けている。

○ 妖精騎士団

ベイロンが作った妖精界唯一の軍事組織。生き残った半妖精を中心に組織されている。これにはエルフ、フェアリー、ピクシー、小人も多数参加している。エルフは半妖精と同じ主戦力となる妖精騎士を担当するものが多い。フェアリー/ピクシーは魔法による空中戦力と伝令、小人は使役蟲を使った支援活動が主な役割である。小人の中には、戦闘経験のある半妖精やエルフから訓練を受け、飛翔型使役蟲を駆る空中騎士となっているものもある。

○ 妖精騎士

樫の木で作った槍と弓を武器とし、妖精馬モノセロスを駆る妖精の騎士。まとっている鎧は木でできているが、その強度は金属鎧に匹敵し、その重さは革鎧と同じであるとされる。

○ 妖精馬モノセロス [Monoceros]

具象界では一角獣、もしくはユニコーンとも呼ばれる生き物。全体的には馬に似ているが、ライオンの尾、牡ヤギの顎髯、2つに割れた蹄をもち、額の中央に螺旋状の筋の入った長い1本の角を持つ。体毛は正確には銀色だが、光の加減によっては白色にも灰色にも見える。

性格は猛犸で、敵意や悪意に敏感に反応し、反射的に攻撃を仕掛けるほど荒っぽい。妖精騎士が乗ることで人馬一体の戦闘兵器と化し、その闘争本能は戦場を蹂躞することに向けられる。具象界で語られる伝説とは異なり、清らかな心の乙女に心を許したりはせず、その角には解毒や癒しの力はない。

パートナーとなる妖精騎士にしか懐かず、妖精であってもちよっかいを出す相手には容赦なく攻撃する。そのため、妖精であっても妖精騎士以外は近づこうともしない。

乗り手となる妖精騎士を含めた自分の体重をほぼ0にする特殊能力を持つ。これにより新雪の上を足跡をつけずに歩くことができるばかりか、小さな枝葉、空中に舞う落ち葉ですら足場として駆けていくことができる。

§ 追加ルール

GMの許可があれば以下の種族のキャラクターを作成してもよい。

○ 半妖精(ハーフエルフ)

人間とエルフの間に生まれた者。その特異な出自にもかかわらず、エルフと並んで妖精騎士となることができる者達でもある。

利点:

- +1: 暗視 : 真の闇以外の暗闇で屋間並の視界を得る。
- +3: 妖精魔法 : 妖精だけが使える魔法。専用特殊能力。
- +1: 高視覚 : 視覚を使った《知覚》の判定に+1。
- +1: 高聴覚 : 聴覚を使った《知覚》の判定に+1。
- +1: 長命 : 最低でも人間の倍以上の寿命がある。実際の寿命は不明。
- +1: 妖精騎士 : 妖精王国の守護者としての誓いを立てる。専用装備を得る。この利点はエルフも取得が可能。

欠点:

- 1: 非力 : 筋力が関係する《体力》の判定に-1。
- 2: 鉄傷致死 : 鉄によって受けるダメージが2点増える。

★ 妖精騎士の専用装備

「妖精騎士」の利点を持つキャラクターは、以下の装備を無償で取得できる。

1) 銀の剣/樫の槍

「銀の茨」からとれる棘の中でも、60cm以上の長さを持つ特に大きなものを刀剣として使用する。剣としては鋼並の強度を持つが、重さは同じ大きさの剣の80%ほどのため扱いやすい。同様に穂先として最適なものを頑丈な柄に接続することで槍とする。この槍は主に馬上で使用することを想定されているが、投擲も可能。

#) 武器 : コスト: 移動修正: 攻撃修正: 破壊力

- 1) 銀の剣: 5 : ±0 : +1 : +1
 - 2) 銀の槍: 5 : ±0 : +1 : +1
- ※どちらも片手用、《白兵》で使用。
※槍は両手で使用しても性能は変わらず扱いもとする。
※ルール上はどちらも銀製の武器として扱う。

2) 樫(イチイ)の弓

複数の木を丹念に重ねて作った合成弓。とりたてて良い性能というわけではないが、頑丈で湿気などにも強い作り。

#) 武器 : コスト: 移動修正: 攻撃修正: 破壊力

- 1) 樫の弓: 2 : ±0 : ±0 : +1

3) 樫の鎧

妖精界に生える樫の木を加工して鎧としたもの。着用者の体格に合わせて削りながら作成するため、原則として他人のものは使用できない(無理に使用した場合、移動修正と防御修正に-1の修正が加算される)。

#) 防具 : コスト: 移動修正: 防御修正: 構築力

- 1) 樫の鎧: 7 : ±0 : +1 : +1

4) 妖精馬

妖精騎士となることで、相棒となる妖精馬モノセロスと出会うことになる。このモノセロスは相棒となる妖精騎士にしか懐かない。妖精騎士以外には触れることすら拒否する。誰かを相乗りさせる場合は、あらかじめ妖精騎士がなだめておく必要がある。

◆ 表: 妖精馬モノセロスのパラメータ表

- ・ コスト = 1
- ・ LP = 20
- ・ SP = 10
- ・ 《知覚》: 6
- ・ 《戦術》: 5
- ・ 移動力 = 30 ※森林、砂上、雪上で移動力低下無し。水上移動も可能。
- ・ 攻撃修正 = +3 ※妖精騎士が騎乗時は妖精騎士の《騎乗》を加算。
- ・ 破壊力 = +3/+5 (角/蹄) ※格闘扱い
- ・ 防御修正 = +3 ※妖精騎士が騎乗時は妖精騎士の《騎乗》を加算。
- ・ 構築力 = +3